

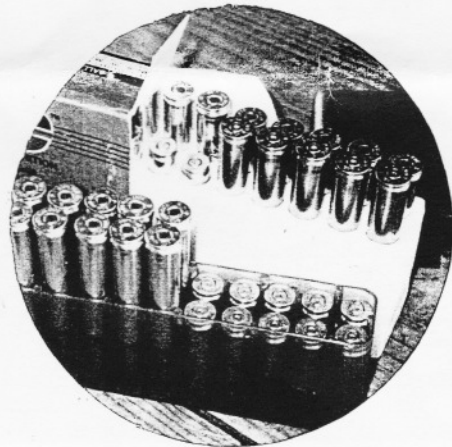
News Letter Vol. 2

ニュースレターは年4回会員に情報季刊誌として発行いたします。
ご意見ご要望、掲載希望記事などございましたら、事務局までFAXまたはメールでお知らせ下さい。

保護管理部会レポート

銅弾による射撃練習会

ワシ類の鉛中毒防止の観点から、エゾシカ猟における鉛含有ライフル弾の使用規制が検討されている。しかし、非鉛含有弾頭(一部分に鉛を使った弾頭もあるが、以下では銅弾と統一する)に関する情報は充分ではなく、ハンターの間にはこれらに対する不信感も強い。そこで1999年7月24日、浦臼射撃場にて「銅弾による射撃練習会(試射会)」を開催した。このイベントは、1) 専門家(銃砲店)による銅弾関連の講習、2) 会員ハンターによる実射、3) 射撃結果にもとづく専門家からのアドバイス、の三本立てで進化した。また、射手や射撃指導員、銃砲店らにはアンケートのご協力をいただき、射撃結果として集計した。これらを通じ、銅弾に関する情報交換(使用やリローディング時の留意点)と命中精度の検証を行なうことが可能であった。



使用された銅弾。手前は手詰め装弾。奥のパッケージは既製装弾(PMC製300ウインチェスターマグナム)。

1. 参加者、話題提供、ならびに射撃結果

参加者は、射手9名および指導・見学者等12名であった。この中には、銃砲店(4軒)、射撃指導員(4名)、道庁関係者(3名)、猟友会関係者(2名)も含まれていた。また、取材陣も訪れ北海道新聞には次頁の記事も紹介された。

講習や情報交換で焦点となったのは、「銃身内の銅付着」と「殺傷力」の問題であった。前者については、「メーカー(バーンズ社)が推奨するクリーニング方法」が紹介され、薬品や器材が日本でも購入可能なことが示された。また、銃が道具である以上、「ハンターが自己責任としてクリーニングすることは当然」という指摘もあった。

殺傷力の問題は「半矢が多い」との指摘もあり、今後の課題として残された。しかし、銃刀法の規制から、一般ハンターが実験・検証することは不可能である。銅弾の殺傷力に言及した米国の文献もあるが、判断のベースとなる「狩猟形態」が日本とは異なる。したがって、「早急に法的問題がクリアされ、独自の殺傷力試験を行なう必要あり」との見解が出された。その他、銅弾頭の一般特性や銃身との相性の問題についても話題にのぼった。

実射では全員で200発以上が発射されたが、これまで指摘されていた「銃身の変形」や「横転弾」は発生しなかった。命中精度については、「狩猟には充分である」というのが当日の結論であった。

2. アンケート結果

アンケートでは、従来の鉛含有弾頭に比較し「良い」、「同じ」、「悪いが実猟に支障はない」、「実猟に支障があるほど悪い」、「その他」の選択肢で回答をお願いした。

1) 射手によるもの

308ウインチェスター、30-06、300ウインチェスターマグナム、7mm-08アックリー、12番散弾銃で回答を集計した(他の特殊口径は除外)。結果は下記のとおりである。

- ・308ウインチェスター
悪いが支障はない: 3
その他: 1(弾数を撃つうちに悪くなるとのコメント)
- ・30-06
同じ: 1
実猟に支障があるほど悪い: 2
- ・300ウインチェスター・マグナム
同じ: 2
- ・7mm-08アックリー
実猟に支障があるほど悪い: 1
- ・12番散弾銃(銃身の半分にライフルが切られた銃を使用)
同じ: 1

合計すると、「同じ」が4、「悪いが支障はない」が3、「実猟に支障があるほど悪い」が3、「その他」が1であった(2種以上の実包を撃った射手のため、回答数は射手数を上回っている)。すなわち、「実猟に支障ない」とする判断が63.6%と過半数を占めた。

2) 銃砲店・指導員によるもの(回答者4名)

コメントの内容が多岐にわたるため、項目ごとに抜粋して記する。

- ・命中精度について
概して良好であることが、ほぼ一致した見解であった。ただし、従来弾と変わらない、「概ね良好」、「それほど悪いものではない」、「150・300メートルでの結果も考慮すべき」など、表現には若干の差があった。また、「ベンチレスト射撃で正確な比較をすべきであり、猟野での結果は全く客観性を持たない」という指摘もあった。
- ・殺傷力について
「殺傷力(侵徹力やエキスパンド)に関する試験が必要である」との意見が2名から出された。一方で、「鉛弾であっても銅弾であっても、100メートル以上逃走する場合は着弾点が悪い」との指摘があった。また、「ヒグマの場合は近距離射撃が多く、鉛弾のようにバラバラにならないため銅弾の方が良い」とのコメントもあった。
- ・その他のコメント
「エゾシカ協会は会員ハンターのレベルアップ(知識や技能)をはかる必要がある」とのアドバイスがあった。また、「季節や種を限った(鉛弾の)規制にすべき」とのコメントもあったが、「クマタカやシマフクロウもシカの死体に付いているとの情報もあり、ザル法としないためにも鉛弾は全面的に規制すべき」という正反対の意見も記されていた。

(次ページへつづく)

3. 総括

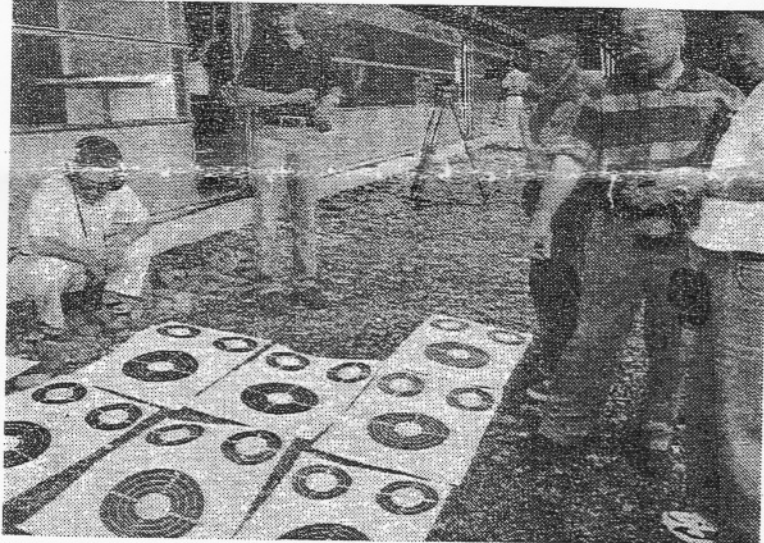
今回の結果は、

- 1) 命中精度は鉛弾に比べ若干落ちる場合もあるが、実猟上問題ないとの判断が多かった
- 2) 銅付着のメカニズムと銅弾特有のクリーニング方法が説明された
- 3) 銅付着に関連し、銃身の膨らみや横転弾などの事故は一切発生せず、これらの事故は一般的とは言えないの3点に集約される。したがって、これまで銅弾につきまっていた「命中精度」、「銅付着(銃身の変形や横転弾の問題もここに含まれる)」、「殺傷力」に関する不信のうち、前2者の問題がほぼクリアされたと考えられる。また、銃砲店、射撃指導員、行政、猟友会関係者、マスコミなどの立ち会いのもとに行われたことから、十分な客観性を持つものと判断される。

文末ではありますが、お忙しい中ご参加いただいた皆さま、ならびに貴重な配付資料をご提供くださった生駒元様、大塩八紘様、和田順様に感謝いたします。また、ご後援をいただいた北海道猟友会にも深く感謝の意を表します。

「銅弾でも対応可能」

エゾシカ協
会
協
会
鉛弾追放へ射撃練習
浦
白



エゾシカ協会の銅弾射撃練習会に参加したハンターたち

【浦白】鉛弾の残るエゾシカの死がいを食べて引き起こされるワシの鉛中毒問題などで、鉛弾から銅弾への切り替えを促す「エゾシカ協会」(会長・大森司紀之北大教授)は二十四日、銅弾射撃練習会を空知管内

浦白町の浦白国際ライフル射撃場で開いた。北海道猟友会の協力で道内各地のハンターが参加したほか、道エゾシカ対策室の担当者も視察。約二時間に行われたハンター九人が百発離れた的に向けて銅弾

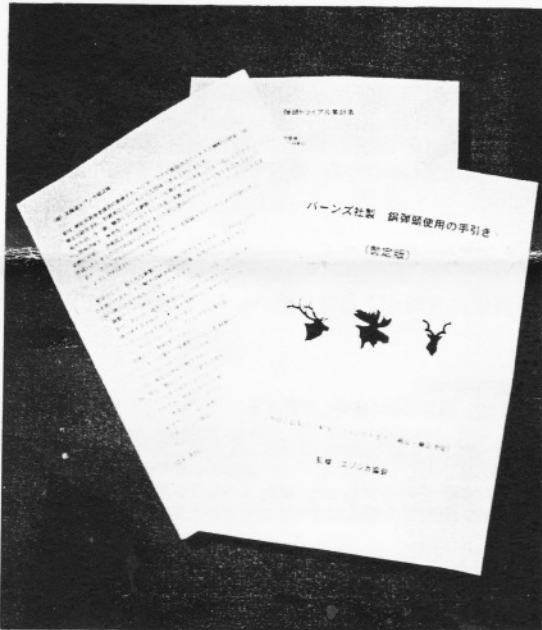
の実射を行った。

計三百発を撃ち終えたハンターたちは的を検証し、「鉛弾と比べて命中率を色はばない」「精度はやや落ちるが、シカ猟なら問題ない」などと話し、銅弾でもエゾシカ猟に対応できることを確認し合った。

しかし、実際の猟で重要な要素となる弾の威力については、的が紙製のため貫通してしまふ、十分確認できなかった。同協会は「国内では銃刀法の制約もあり、実測は難しいが、海外データでは大きな差がない」と説明している。

事前の講習会では、銅弾の命中率を高める銃身のクリーニング法などが紹介された。

同協会員で北大大学院獣医学研究科の鈴木正嗣助教は「命中率や威力は、複雑な要因が絡み数値的に結論を出しにくいだが、客観的な証明は重要な課題だ」と話している。



配布資料

協会活動報告

本年2月1日の協会設立以降、会員の皆様のご協力により以下の活動が進められています。又、各分会でも部会長他を中心に具体的な活動が始まりました。今後ともよろしくお願ひします。

11. 2. 1 ・ エゾシカ協会設立記念講演会の開催
講師：英国スコットランド・アカシカ協会ヤングソン研究部長
「森とシカと人との共生」～英国アカシカ協会の活動～
於：札幌市 かでる2.7 出席：120名
2. 8 ・ 事務局会議(役員会準備)
2. 24 ・ 役員会議(運営方針協議、リローディング機器導入検討等)
3. 5 ・ 社団法人日本技術士会シンポジウム開催への協力
「試される大地・エゾシカとの共生」
於：北海道大学学術交流会館
講演者として協力：大森司会長・高畑・高木・石黒の各会員
3. 18 ・ リローディング機器導入(提供：北海道獣医師会)
・ 道内各地における研修会の開催
・ 事務局会議(ニュースレター編集)
3. 20 ・ ニュース・レター第1号発行 部数：200部
4. 2 ・ 事務局会議(部会準備)
4. 14 ・ エゾシカ協会検討部会の開催
於：札幌市 かでる2.7 出席：75名
5. 31 ・ 事務局会議(マニュアル等作成担当者検討・依頼)
6. 10 ・ 事務局会議(試射会準備)
7. 24 ・ 非鉛弾試射会
パース社製鋼弾頭使用の手引き(暫定版)配付
協力：北海道猟友会
於：浦臼町 浦臼国際ライフル射撃場
7. 28 ・ 事務局会議(部会運営・マニュアル・調査費申請の検討、ニュースレター編集)

各分会の活動

A 保護管理部会

- ・ 鈴木部会長、猟友会、会員銃砲店等の方々のご尽力により、試射会が開催され、別記事のような成果が得られました。
- ・ 佐藤理事を中心に、リローディング勉強会が計画されています。
- ・ 猟区設定の実験事業の実施に向けたワーキンググループの設置が検討されています。
- ・ 鉛中毒対策に関する関連グループとのシンポジウムの開催が検討されています。
- ・ 鳥獣保護法の改正後の動きにあわせ、ハンター教育、ライフル資格取得期間の短縮、夜射ちによる駆除など積年の課題解決に取り組むたいと考えています。

B 被害対策部会

- ・ 小谷部会長、原さんなどが中心となり、効果的なフェンシング手法等の素案作りが進められています。
- ・ 交通事故対策については、道路公団や釧路及び網走開発建設部に会員が協力しています。
- ・ 2つの小委員会を設置し活動することとしました。

(1)システム開発研究小委員会

- 1) 行動、分布などの基礎資料の整備
 - 2) ハザードマップの作成
 - 3) 事故報告システム
 - 4) 残滓処理システム
 - 5) 総合的対策システム
 - 6) 整備効果
 - 7) 広報・教育
 - 8) 他の野生動物との関係
 - 9) 対策による農林業・道路交通以外への影響
- 担当幹事：神野英二(札幌道路エンジニア)

(2)技術開発研究小委員会

- 1) フェンシングの構造、設計
 - 2) アンダーパス、オーバーブリッジの設計法
 - 3) 脱出用施設の計画と設計
 - 4) 取り付け道路、河川部分などの処理
 - 5) 餌による誘導
 - 6) におい、音、照明
 - 7) 施設の維持管理
 - 8) 調査手法
- 担当幹事：原文宏((社)北海道開発技術センター)

・ 今後の予定

- 1) 各小委員会メンバーの募集 8月上旬
- 2) 小委員会の第1回会合 8月下旬～9月上旬
- 3) 各小委員会の年次活動計画作成 9月下旬

C 品質管理部会

- ・ 伊東部会長、高木さんなどが中心となり、ハンティング・マニュアルの素案作りが進められています。部会員への意見照会を経て8月末を目途にまとめる予定です。
- ・ 衛生管理マニュアル(肉処理、衛生検査)は、松岡さんの助言及び道庁担当部局のご指導により、素案作りが進められています。

D 有効活用システム化部会

- ・ 西川部会長を中心に、品質表示を盛り込んだ消費者向けパンフレットを作成する方向で検討が進められています。近々、部会員への打診が予定されています。

事務局の活動およびお知らせ

- ・事務局では、11月の猟期に向けて、非鉛弾のテストや普及及びハンティング・肉処理・衛生管理のマニュアル作りのお手伝いに力を入れたいと考えています。
- ・年度末の法人化申請を目指して、資料収集や申請書類案作りを進めています。
- ・「クリーンキル」と「衛生管理」が実現し、安定した供給がなされれば、エゾシカ肉を大量に扱いたいという申し入れがいくつかあります。マニュアルを完成させ供給システムを作るために、担当部会間の調整を進めたいと考えています。
- ・「協会」のパンフレット作りも早急に進めたいと考えています。

会合のご案内

下記のとおり会合を開きますのでよろしくお願ひします。

各部長と相談の結果、有効活用システム化部会(D部会)の部会会合を開くことにしました。

日時 9月10日(金曜日)

		参集範囲
理事会	11~12時	理事
部会連絡会議	13~15時	部長・部会事務局
有効活用システム化部会会合	15~17時	D部会会員

*理事・部長の方には、D部会にオブザーバーとしての出席をお願いします。
なお17時30分~懇親会を予定しております。

場所 かでる2・7 10階語学演習室
札幌市中央区北2条西7丁目

D部会内容 鹿肉のパンフレットを作成(来年以降)するための素案作り
パンフレットに盛り込む項目案
鹿肉の特性・衛生基準(C部会と調整)・品質基準(各付け等)
製品基準(カット等)・部位別料理法
その他項目案、項目の内容案等を検討のうえご参加いただければ幸いです。

出欠 9月1日までに事務局 井田まで連絡をお願いします。

事務局からのお願い

会員の方で会費未納の方は、振込みよろしくお願ひします。所属部会希望をまだ出されていない方は、至急お願ひします。8月末までに連絡ない方は、事務局で仮に決めさせていただきます。

ロゴマークの案が寄せられましたので紹介します。
他にも案がございましたら、ぜひお寄せ下さい。

